

免許状教科	中学校1種(社会)・高等学校1種(地理歴史・公民・社会)			
科目名	カリキュラム論	科目分類	教職科目	
			学科	■必修 □選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Curriculum development	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	うらの ひろし	開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中	
担当者名	浦野 弘	修得単位	2 単位	
		実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	中学校や高等学校における教員としての教育課程を編成する力量形成の基礎を学ぶ。			
到達目標	1)学校における教育課程の位置付けやその機能的役割について例を挙げて説明できる。 2)わが国の教育課程の変遷を説明できると共に、近年の動向を事例を挙げて解説できる。 3)学校において教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点を事例を挙げて解説できる。			
授業概要	中学校ならびに高等学校の教育課程(カリキュラム)について、その意義と目的について理解し、教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践的な力量の基礎を身につけることを目的とする。学校の教育課程の基準である学習指導要領の中心的な内容について歴史的変遷をふまえながら、それを支える考え方や関連する基礎的な知識・理論を理解し、今後、教育改革の諸動向や地域の実態をふまえ、学校の実情に即した教育課程を編成できるような資質能力の形成を目指す。			
授業計画				
第1回	自己紹介, オリエンテーション			
第2回	学ぶとは, 教育の目的は			
第3回	教育課程, カリキュラムとは			
第4回	なぜ, 教育課程が必要か: 新学習指導要領から考える			
第5回	教育課程の変遷①明治~戦前			
第6回	教育課程の変遷②戦後~昭和期			
第7回	教育課程の変遷③平成期			
第8回	新学習指導要領が求めるも			
第9回	各教科, 領域, 総合的な学習等の固有な目標と指導計画			
第10回	教材, 教具, 教科用図書役割			
第11回	教育課程を構築するための思想的基盤			
第12回	教育課程の構造と編成の原理			
第13回	教育課程の評価と改善, 学校評価制度, カリキュラム・マネジメント			
第14回	学校・家庭・地域との連携, 潜在的カリキュラ			
第15回	初任者のクラス担任として学校教育目標から教育課程を考える			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所必ず目を通し, 分からない単語や用語について辞書等で調べ, ノートにまとめておいてください。それと共に, 内容の大筋を把握するように努めてください(1.5時間程度×15回分)。集中講義前半分は, テキスト①の1~140頁が, この対象です。 2. 集中講義後半分については, 前半の最後の講義において指示をします。特に, 宿題が課せられますので, 必ずそれを行うことが求められます。			
履修条件 受講のルール	教科書を必ず購入し, 講義時には持参すること(未購入のときは上記予習ができていないと見なし, 受講できません)。配付された資料は, それ以降の講義時には忘れずに持参するようにしてください。			
テキスト	①田中耕治他(2011)『新しい時代の教育課程 [第4版]』有斐閣 ②文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編』, 東山書房 ③文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』, 東洋館出版			
参考文献・資料	語義の際に, 配付する。			
成績評価の方法	・宿題等のレポート(30%)と, 最終に筆記試験(60%)を課す。また, 毎時間求められる授業内容に関するコメントや, 講義中の演習・作業への参加度(10%)も加味し, 総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は, 試験を受けることができません。 ・宿題やレポート課題は授業内で指示します。			
オフィスアワー	授業終了後			
成績評価の基準	秀(100~90点), 優(89~80点), 良(79~70点), 可(69~60点), 不可(59点以下)			
学生へのメッセージ	この集中講義は2回に分けて実施します。まずは上記の「授業時間外の学習」に示す予習を必ず行ってください。ゼロの場合には, 受講が出来ない可能性もあります。後半に向けての宿題と指示(レポートを含む)は, 前半の最後(第8回目)に示しますので, それを必ず実行してください。			